



01 特集1／
災害ボランティアの継続と
防災訓練への参加

03 特集2／
フローレンス・
ナイチンゲール記章

学年紹介

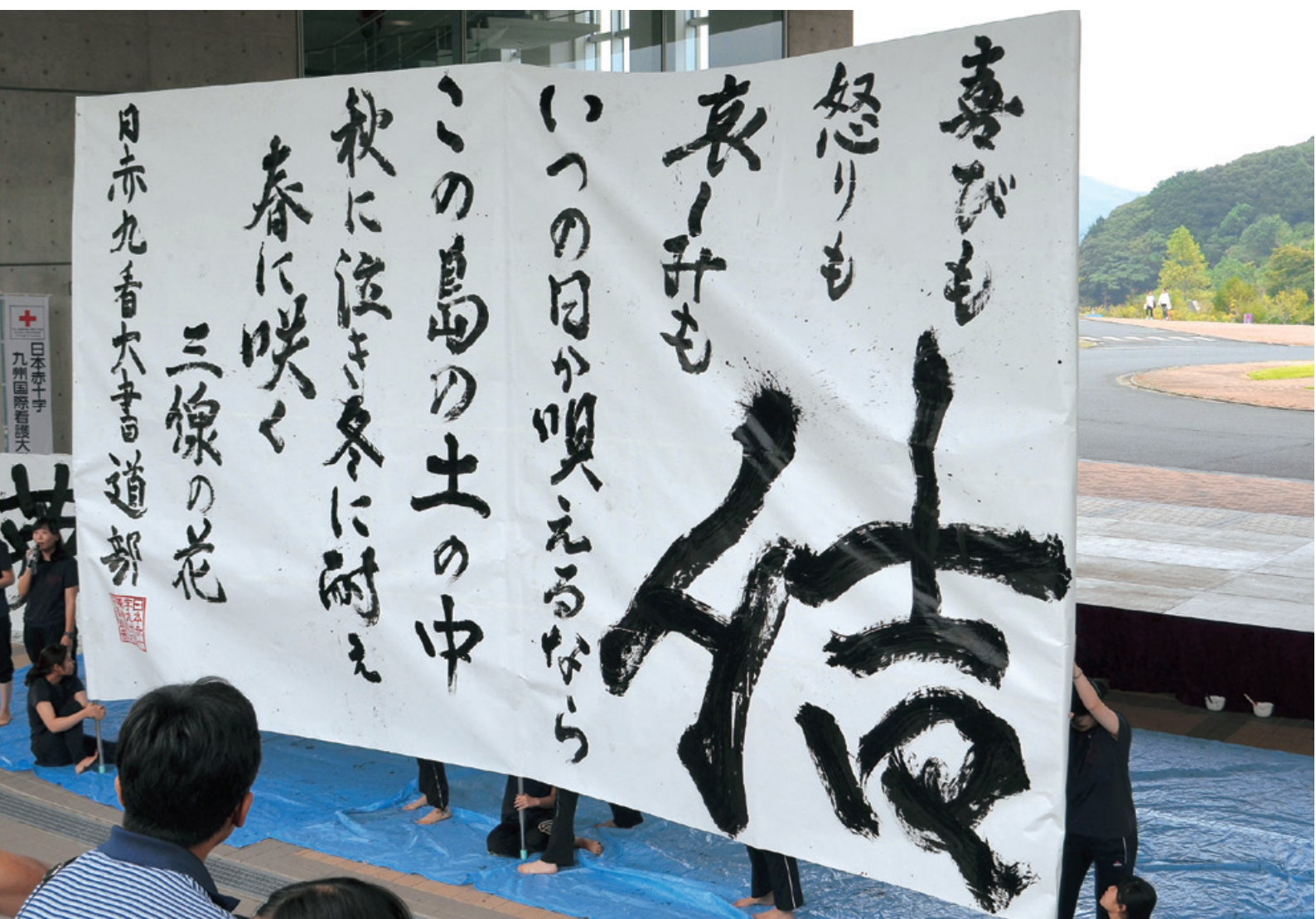
- 04 1年生
- 05 2年生／3年生／4年生
- 06 大学院／行事
- 07 キャンパス日記
- 09 サークル紹介
- 10 平成28年度 学部 就職・進路状況／研究室訪問

「音・舞・書」

今年創部の書道サークルが、エイサー（沖縄の伝統芸能）サークル「ゆいまーるのわ」と初共演して見事な書道パフォーマンスを披露しました。

ゆっくりと奏でるメロディーとエイサーの演舞にあわせ、書道部全員が代わる代わる演舞曲の歌詞の一部をしたため、「結」の文字を力強く書きあげ、初舞台をしめくりました。

第13号
2017.4 ▶ 2017.9



ひとりを看る目、その目を世界へ

特集 1 災害ボランティアの継続と 防災訓練への参加

熊本県益城町の仮設団地内集会所にて
移動図書館継続中です

本学の学生サークルKDNS（九州災害看護研究サークル）※は、仮設団地内で週に1回、移動図書館を開設することを企画し、活動を継続しています。この企画は、幅広い年代の住民の交流を促すだけでなく、子どもたちに本を読む機会を与えることを目的としています。

2017年1月から開始したこの活動は回を重ねるごとに、利用者や貸出し数も増え、図書館の認知度も上がってきたと実感しました。

はじめのころは利用者のほとんどが子どもで、貸出しの内容も児童書や絵本が多かったのですが、徐々に大人の利用者も増えてきました。

活動を通して、どのような本を必要とされているのかが分かってきました。今後も利用者のニーズに合った本を提供できるようにしていきたいと思っています。

※KDNSサークルは、平成28年4月の熊本地震を契機に学生自らが立ち上げた「学生復興支援委員会」から発展した学生団体で、「災害時に看護学生として何ができるか」を基盤に、日常的には学習会等の活動を展開しています。

九州北部豪雨災害被災地支援として
募金活動、現地でのボランティア活動を行いました

2017年7月に発生した九州北部豪雨災害の支援として本学の学生サークル



ル「KD NS」の学生を中心とした有志は、8月3日に学内での募金活動を行いました。続いて10日（道の駅むなかた）、24日（博多駅）と、連続して活動を行い、炎天下の中、買い物客や会社員に大きな声で「ご協力をお願いします！」と呼びかけました。

このうち、24日に博多駅で行った募金活動では、NHK福岡放送局の取材を受け、懸命な活動の様子や代表の松本玲子さん（学部2年生）がインタビューに応える姿が、当日の昼と夜のニュースで放映されました。

この日、博多駅での募金活動を終えた後、日本赤十字社福岡県支部に赴き、3日間に亘り集めた募金約9万円を、同支部の松本事務局長に手渡しました。

8月1日には学生15名と職員1名が、大分県日田市において、社会福祉協議会を通じてボランティア活動を行ってきました。豪雨から約1カ月を迎えようとする被災地は、泥や流木で茶色く濁った景色が広がっており、被害の大きさを物語っていました。

今回作業にお伺いしたお宅は川の側にあり、何度か作業が行われているにもかかわらず、未だ泥や水が残っているという状況でした。気温30度を超える中、11時半から15時半までの四時間、家財の搬出や床板の撤去、床下に溜まった水や泥を出す作業を行いました。家主の方とお話する中で「怖かった。どうなることかと思った。避難はしていたけど一瞬で水が上がってきて、山からも滝のように水が来た。当初は不安しかなかったけど、今はたくさんの方がボランティアで来て下さるので本当にありがたいし、立て直していかなきゃ。」と前向きに歩もうとされる姿を見て、今後も継続した支援の必要性を再認識しました。



「平成29年度宗像市総合防災訓練」に参加しました

学生ボランティア4名と教員3名で宗像市総合防災訓練に参加しました。

今年度は西山断層を震源としたM7.3地震発生による震度6弱から6強の地震想定で、住民参加の初動体制訓練として日の里中学校で実施されました。

今回の訓練にあたっては市役所の方々と数回の打ち合わせを行い、私たちの役割を明確にして訓練に臨みました。私たちに課せられた役割は①車中泊者への聞き取り調査と保健指導、②集合住宅からの要支援者のスクリーニングと保健指導、③「避難者の健康管理について」のポスター展示でした。

私たちは2つのチームに分かれて用意したエコノミークラス症候群、熱中症、生活不活発病予防のチラシを用いて避難者の方々へ注意点を説明しました。

訓練には地元の消防団、警察、自衛隊のほか小中学生、住民の方々が多く参加され、閉会式の後には自衛隊の方と地元ボランティアの方が作ってくださったカレーを試食し、無事訓練を終了しました。

また、この訓練に先立ち、8月に学内で初めて実施された防災訓練にもKD NSサークルの学生は中心となって参加しました。



フローレンス・ ナイチンゲール記章



＋ 本学大学院看護学研究科1期生 伊藤明子氏が

「第46回(2017年)フローレンス・ ナイチンゲール記章」を受賞

第46回(2017年)フローレンス・ナイチンゲール記章を、
本学大学院看護学研究科1期生である伊藤明子氏が受賞され、
8月2日東京プリンスホテルにて授与式が行われました。

フローレンス・ナイチンゲール記章は、傷病者の看護の向上
に献身し、人道の精神のもとに近代看護の礎を築いたナイチン
ゲール女史の偉大な功績を記念し、赤十字国際委員会
(ICRC)が看護活動に顕著な功労のある方に贈るもので、看
護の分野では国際的に最も名誉ある章です。今回は22ヶ国39名
が受賞し、日本からの受賞者は伊藤氏1名のみでした。

伊藤氏は1980年に松江赤十字看護専門学校を卒業後、松江
赤十字病院に勤務され、2002年には名古屋第二赤十字病院で
看護師長兼国際医療救援課長として勤められました。2007年
4月に本学大学院1期生として入学し、赤十字の看護について研
究を深め、2009年3月に
修了されました。現在は、名
古屋第二赤十字病院で副院
長兼看護部長として勤務さ
れています。

1988年に国際赤十
字・赤新月社連盟
(IFRC)の要請を受けて
マレーシア国ビドン島にて
ベトナム難民支援に従事さ
れたのを皮切りに、アフガ
ニスタンやケニア等さまざ
まな紛争地帯で、各国・地



皇后陛下お手ずから、伊藤副院長に記章が授与されました

域から派遣される医師、看護師等のメンバーで構成される赤十
字の医療チームを束ねる事業責任者として数々の現場で指揮
を執った経験を持つ日本人唯一の看護師であること、東日本大
震災や熊本地震など大規模災害では、被災者でありながら昼夜
問わず患者を受け入れていた病院支援のコーディネーターと
して活動されたことが評価され、今回の受賞となりました。

＋ 本学3年生が皇后陛下との 茶話会に参加しました

第46回フローレンス・ナイチンゲール記章授賞式、また、そ
の後、催された受賞者の伊藤明子さんを祝福する茶話会に学生
代表の一員として参加しました。茶話会には日本赤十字社の名
誉総裁である皇后陛下や名誉副総裁の皇太子妃雅子様、秋篠宮
妃紀子様、寛仁親王妃信子様の御臨席を賜りました。皇族方は
九州北部豪雨や熊本地震の出来事を大変気になさっており、本
学が行っているボランティア活動を伝えると大変関心
をお示しになり「これから
も継続して頑張ってください
い」というおことばをいた
だきました。今回このよう
な貴重な機会に参加させて
いただき、日本赤十字社の
方々ならびに本学の職員の
方に感謝申し上げます。今
回学んだことを他の学生に
も伝え、学生一同日本赤十
字社の一員としてさらに勉
学に精進したいと思いま
す。



Class Introduction

赤十字の理念「人道とは」 ー私たちの考える人道と実践のためにー

私たちは赤十字学園の看護大学で看護を学んでいます。入学し1年生として、赤十字概論の授業において、まず、赤十字の理念である「人道」の意味について考え、日々の生活で実践するためにはどうしたらよいか、いくつかのグループに分かれて学生同士で意見交換をしました。

「人道」という漢字が意味することは、「人の生きる道」と捉えると生き方や権利を意味し、「人が守るべき道」と捉えると義務や法律、人権を意味し、「人が進むべき道」と捉えると平和や幸福を意味しているということがわかりました。そこで私たちは「人道」とは、一人ひとりの運命や権利、平和、幸福を尊重するために守るべき義務や法律だと考えました。

この「人道」を実現するために私たちが考えたことは二つあります。

一つ目、人に自分の主観を押しつけず、様々な考え方や価値観、文化があることを理解してお互いに歩み寄ることです。アメリカではこの対策として、セサミストリートという番組で色々な問題を抱えているキャラクターを登場させ、教育の一環として放送し偏見を無くそうという運動をしています。

二つ目、「誰かのために正しいことをする」という正義の心を持つことです。

アンパンマンの作者であるやなせたかしさんの言葉を引用すると「困った人を助け、献身することが正義であり、正義には必ずリスクを伴い、時に自己犠牲を払うことや深く傷つくこともある」と語っています。

私たちが大学での講義で学んだ、赤十字の創設者であるアンリー・デュナンや「シンドラーのリスト」の主人公であるオスカー・シンダーラーが起こした行動はまさしく「自己犠牲を払いながらも、目の前で苦しむ人に手を差し伸べる」という正義であると思いました。

私たちは将来看護師として様々な考えや個性を持った人に看護や援助をしていく立場になるため、相手の気持ちを理解し、相手を認めることが大切であると考えます。今回の授業を踏まえ、自身を取り巻く環境にしっかりと目を向け、周囲に関心を持ち続けること、小さなことでも困っている人や苦しんでいる人に手を差し伸べるが必要だと考えました。

記:執筆者代表 1年生 樋口 花菜



Class Introduction

スイス・ジュネーブにある国際機関を訪問して

2
年生

私たち2年生5名、3年生4名、4年生3名は、3月にスイスのジュネーブにある赤十字国際委員会(ICRC)、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、を訪問し、職員の方から国際社会に参加する事はどういうことなのかについて直接話を伺うことができました。ICRCでは人道危機と「Health Care in Danger」「危機にある医療支援」について、IFRCでは赤十字の活動について、UNHCRでは難民支援についての話を聞き、国際社会で働く上では、人そのものを見るという看護の本質を持つことの大切さを学びました。



ランチョン・ミーティングの発表では、IFRCの講義で使用されたハイチ大地震での避難キャンプの写真を提示し、参加者にまず問題を問いかけ、次になぜその問題が起きているのかをアセスメントするという人道支援を体験できる演習を挟みながら進めていきました。

参加者からの質問の中には「実際に国際機関を訪問し話を聞くことで得たことは何か」「話を聞いて今後どう活かそうと思ったか」など活発に意見交換ができました。今回の訪問ではアメリカやヨルダンの学生と一緒に講義を受ける機会がありました。一緒に学ぶことで自国の文化や問題に目を向けることや疑問を持って積極的な姿勢で物事に取り組むことの大切さを学びました。

記: 2年生

Class Introduction

レベルⅣ実習に向けて

3
年生

いよいよ、約3か月に及ぶ病院・施設・地域での実習が始まります。今回、私たち3年生が挑む「レベルⅣ」という実習では、健康レベルやライフステージ、個もしくは集団など、対象(患者)の特性に応じた適切な看護を行う能力を養うことを目標に5つの領域で展開され、9月25日から12月22日の期間で実施されます。

今までのレベルⅠ～Ⅲ実習に比べ、より対象を理解・受容するための知識や姿勢が求められるため、協調性や多角的な視点も重要となります。実習では、これまで学んできた知識や技術を実践できる場であることや、領域別の対象を看することで講義だけではみえない療養者の背景や気持ち、家族の思いに触れることのできる貴重な時間となると思います。また、レベルⅣ実習での経験は今後の私たち自身の将来像を明確に方向づけ、さらに学習意欲を高めてくれる大切な機会にもなると思います。

今、自分が対象者のためにできることを1番に考え、先生方や臨床の看護師さんから指導をいただきながら、グループメンバーとも協力しあい、看護ケアをおこないたいと考えています。

記: 3年生 高良 空虹



Class Introduction

看護師国家試験対策に取り組んでいます

4
年生

2月の看護師国家試験に向けて、意欲のある4年生約30名が、これまで受けた国家試験模試と過去国家試験に出題された問題の復習を行っています。

おもに、重要疾患の状況設定問題を使い、教員の解説も交えながら、人体の構造と機能・疾病と成り立ち(病態・疾病・検査・治療)・看護、事例に関係する社会保障制度と健康支援等の重要項目と、それらに関連付けた内容の復習に重点を置いて取り組んでいます。

学生は、グループ単位でテキストや問題集を活用しながら、ホワイトボードに図や表を記載し、状況設定問題および重要疾患関連の問題を、グループ学習をして、他の参加学生が理解できるように、わかり易く解説をするという学習形式をとっています。

学生自身で他者へ説明することにより、その事例に対する理解を深め、学習方法や知識を習得することにつながっています。

記: 4年生 担任



大学院生交流会に参加しました

5月26日の昼休みに大学院生の交流会が開催され、博士課程で学ばれている方々や先生・先輩方とお話させていただきました。先輩からのメッセージとして、博士課程で学ぼうと思った理由や、仕事と学業をどのように両立させているのか、大学院で主体的に学ぶためのワザ等、貴重なお話を聞くことができました。大学院に入学して2か月が経ちますが、様々な経歴や年代の方と励まし合いながら、日々学業に励んでいます。先輩方からのアドバイスの中で、「時間がない事を理由にしない」と言われた言葉が印象強く残っています。多重課題をいかに効率よく進めていくかについて考えながら、有意義な大学院生活を送っていきたいと思います。

記：生涯発達看護領域 助産教育コース 修士課程1年生 嶋田 真夕

研究が始まって以降、このように院生と先生方が集まるのは久々です。

私たち修士課程の学生から、「働きながら学び続ける」ための、仕事や家庭との両立のコツについて披露させていただきました。お弁当を食べながら、笑いの絶えない交流会でした。

学務委員の方や先生方、ありがとうございました。

記：広域看護領域(メンタルヘルスケア) 修士課程2年生 高瀬 理恵子



北九州市で開催された「第18回 日本赤十字看護学会学術集会」に参加しました

平成29年6月24日、25日に北九州市小倉北区の国際会議場で「第18回 日本赤十字看護学会学術集会」が開催され、本学の学生約50名が、ボランティアスタッフとして参加しました。ほとんどの学生が学会に参加するのは初めてでしたが、それぞれが役割を果たすべく自ら動いていました。また、担当業務の合間には、講演やポスター発表を聞く機会もあり、学生にとってよい経験となりました。

後日、学会に発表者として参加されたスイスのラ・ソース大学バウマン学部長が、本学オーヴァルホールにて学生のために講義をしてくださいました。バウマン先生の「スイスの看護教育」をテーマとした講義に熱心に耳を傾け、積極的に質問をする学生の姿も見られ、学会に続き、よい機会となったようです。



あつち 弓道場安土補修工事完成

当初、工事期間を数日予定していましたが、多くの宗像市弓道連盟のみなさんにボランティア参加頂き、たった「一日」で完成しました。

弓道部、荒木部長(2年生)は「感謝です。大事に使わせていただきます。また、今後、ご指導いただけることにも感謝です」と話していました。

弓道連盟のみなさん!梅雨の蒸し暑い中、早朝からの作業をありがとうございました。



第8回日本赤十字6大学学生交流会を終えて

8月22～24日に日本赤十字北海道看護大学で行われた第8回日本赤十字6大学学生交流会(以下、6大学交流会)に、本学より3年生2名、2年生2名の合計4名で参加しました。

この交流会では、毎年、北海道・秋田・東京・愛知・広島・福岡にある日本赤十字6大学の学生が約50名集まり、グループワークやディスカッションなどを通してそれぞれの学びや交流を深めています。今年は北海道で行われるということもあり、九州にはあまり馴染みの無い、「寒さ」という観点からの災害支援についての学習、意見の交換を行いました。

1日目は各大学の紹介、アイスブレイキングから始まり、お互いの緊張を解きほぐしながら、親交を深めました。

また、1日目のメインとして、北海道版HUG(避難所運営ゲーム)を行いました。HUGとは、災害の発生を想定して、避難してくる人々や出来事にどのように初期対応すればいいのか事例に基づいて考えていくゲームです。避難所において、避難者をどのような配置にするのか、どこにトイレを置き、どこを駐車場にするのかなど、また避難者の要望や、避難所での問題についても即座に対応を考える必要があります。今回の北海道版HUGでは、従来のものとは違い、北海道ならではの「寒さ・積雪」という前提条件があります。その条件の中で、数が限られた暖房器具(ストーブ、毛布、サバイバルシート)等をどのように配布するのか、どのような優先順位を付けるのか検討する必要があり、各班、創意工夫を凝らしていました。

2日目は避難所での炊き出し演習として、ハイゼックスを使用した演習を行いました。ハイゼックスとは、耐熱性、耐ストレス性に優れたポリエチレン製品で、その利点を生かして、中に食材を入れて茹でることにより、米を炊くことや、蒸しパンを作ることができるものです。これらを利用することで、カップラーメンや菓子パンなどが主な食事になりがちで、栄養バランスが偏ってしまう避難所でも、少しでも普段通りの食事をするのが可能になり、避難者に安心を与えられるのではないかと考えました。

今回の6大学交流会では、全国の赤十字大学の方と交流を深めることができ、またお互いに自分の意見を交換することで、大学に戻ってからのモチベーションや、刺激につながったと思います。今後もこのような活動で得た知識のさらに深い理解、習得、また更なる活動に繋げていきたいです。



国際保健・看護Ⅱ ベトナム研修を終えて

私たち3年生5名は2017年8月1日から8日の7日間、国際保健・看護Ⅱの海外研修としてベトナム社会主義共和国を訪れました。今年は昨年に引き続き、「災害から命と健康を守る」というテーマの中で、特に高齢者の災害時の対応に重点をおいて研修を行いました。研修では、ナムディン看護大学、ナンヴァン村ヘルスセンター、ベトナム赤十字社、ドンアン診療所を訪問しました。

ナムディン看護大学では、災害時の対応についての講義を受けた後、「もし昨年の台風で生じた洪水のような災害が起きた場合、逃げてきた地域の人々をどこに避難させるか」という議題に対して日越混合の2グループに分かれてディスカッションを行い、その後、学内を探索しました。学内は現在工事中の箇所が多く、避難場所・経路を

決定することに苦労しました。グループワークの成果発表では、どのグループも避難場所は同じでしたが、避難経路の誘導方法や必要な援助を行うチーム(食糧調達や要配慮者の支援など)の必要性など様々な意見が出ました。また今回のテーマである、高齢者の災害時の対応について考えるために、高齢者の身体的・精神的・社会的変化やそのメカニズムをグループで話し合い、耳栓やサスペンダーなどを用いて高齢者体験用のキッドを作成し、ベトナムの学生に着用してもらいました。キッドを着用した状態で学内を散策し、改めて災害時にどのような支援が高齢者に必要かを学ぶことが出来ました。ディスカッションは英語を中心に行いましたが、当初はベトナムの学生の輪に入ることが難しく、有意義なディスカッションを行うことが出来ませんでした。しかし、毎日の反省を生かし、積極的に話し合いに参加したり、ボディランゲージを駆使したりして徐々に対等な話し合いが出来るようになりました。交流会ではお互いの伝統衣装を交換したり、日本の伝統的な遊び(射的や輪投げ)をベトナムの学生に体験してもらったりなど、大変楽しい時間を過ごしました。

ナンヴァン村ヘルスセンターでは、昨年と同様にベトナムのコミュニレベル(第一次医療)の医療施設を見学し、健康教室を実施しました。ヘルスセンターは11地区を統括し、ボランティアからの情報をもとに独自で統計データを収集し、診療活動・健康診断、予防接種、伝統医療(漢方)の提供などを行っています。健康教室では昨年に引き続き多くの高齢者の方に参加していただくことが出来ました。

新たな試みとして、ナンヴァン村に暮らす高齢者(100歳と95歳)のご自宅を訪問させていただきました。どちらの方も食事や運動に気をつけた生活をされていました。また日本との違いは、徒歩圏内に子どもや孫が暮らし家族全員で高齢者の生活を支援していくというものでした。そんな健康なお二人に長寿の秘訣を伺うと、毎日欠かさず運動を行うこと、食事は自分の畑で採れた野菜と自分で釣った魚を食べること、自分の仕事や家族と過ごすことを自分の楽しみとし生きる喜びにつなげることであったとおっしゃっていました。日々の運動や食習慣が健康的な老後を過ごすポイントになることが分かり、改めて自分の生活習慣を見直す必要があると痛感しました。

ベトナム赤十字社では、赤十字社の構成や現在行っている活動内容を伺いました。特に災害対策事業として一昨年まで日本赤十字社も支援していたマングローブの植林事業は、今後政府とともに継続していくという報告を受けました。またマングローブだけではなく、災害の種類に応じて人々が使用できる避難所を建設していることも知りました。午後は、ベトナム赤十字社の傘下であるドンアン診療所を見学しました。この診療所もナンヴァン村ヘルスセンターと同じくコミュニレベルの医療施設ですが、近代的な医療設備を整備し、人々の自立を支援するための診療提供や生活支援を行っていることがわかりました。

今回の研修を通して、ベトナムの社会背景や文化、医療の現状はもちろんのこと、高齢者に対する医療サービスや家族での支援、高齢者自身の健康意識の高さを学び、改めて日本の社会情勢や医療・看護について自分たちに不足している知識が多くあることがわかりました。また、ベトナムの学生との交流から積極的に自分の意見を発信していくことの必要性も実感しました。この学びや自己の課題をもとに今後の学習や実習をより良いものにしていきたいと思いました。



CIRCLE INFORMATION

サークル紹介

弓道部

Japanese Archery club



弓道部は、現在、15名が所属しています。週に2回ほど練習し、また、宗像市弓道連盟からのご指導もいただいています。基本的には1、2年生が主に活動しており、全員が弓道審査で段をとることを目標としています。各学年、試験や実習でなかなか時間を作ることが難しい現状にありますが、部員それぞれができる時に集中して楽しみながら活動しています。前年度までは弓道場が整備されておらず、活動はほとんど行っていませんでしたが、宗像市弓道連盟の会員の皆さんに安土(あづち)等、環境整備を行っていただいたことで、初心者も射場に立てるようになりました。お陰様でかなり充実した部活動を行うことができます。今後、弓道部全体で楽しみながら実績を残せるようにしていきたいです。

書道サークル

Calligraphy circle



私たち書道サークルは、今年度に創部しました。2年生10名、1年生5名で、毎週月曜日に弓道場で活動しています。主な活動として、オープンキャンパスや大学祭で書道パフォーマンスを行っています。9月のオープンキャンパスでは、私たち書道サークルの初舞台となり、無事に成功を収めることができました。サークルメンバーの大半が初心者であり、創部にあたって多くの不安がありましたが、お互いに高めあいながら、日々成長していると感じています。今後は、実力をつけ、活動の幅を広げて、地域の方々に披露することを目指して頑張っていきます。書を通してみなさんを元気にすることができたら幸いです。私たちの活動にご期待ください。

吹奏楽部

Brass band club



私たち吹奏楽サークルは、4年生4名、3年生3名、2年生6名、1年生4名、計17名で日々活動しています。練習は参加する行事の本番1ヶ月前から本格的に行います。それ以外は自主練やサークル内で自由にアンサンブルメンバーを組んで楽しく練習をしています。

今年の第2回目のオープンキャンパスでは、外部から6名の賛助を得て「宝島」など、吹奏楽のポップスの中では有名な曲を演奏しました。現在、11月に開催の大学祭に向けて練習に励んでいます。

また、来年度には書道部・ダンスサークルなどと協力し、オーヴァルホールにて演奏会の企画を立案中です。そのほかにも多くのサークルと協力し、地域の方々や日頃お世話になっている方々へ感謝の気持ちを込めて音楽を届けられるよう活動の幅を広げていきたいと考えています。

平成28年度(13期生) 学部 就職・進路状況



就職

施設名		人数
福岡県	福岡赤十字病院	20
	今津赤十字病院	1
	嘉麻赤十字病院	1
佐賀県	唐津赤十字病院	6
長崎県	日本赤十字社長崎原爆病院	2
	日本赤十字社長崎原爆諫早病院	2
熊本県	熊本赤十字病院	5
大分県	大分赤十字病院	3
鹿児島県	鹿児島赤十字病院	1
兵庫県	神戸赤十字病院	3
	大阪赤十字病院	2
大阪府	高槻赤十字病院	2
	日本赤十字社和歌山医療センター	1
和歌山県	大津赤十字病院	1
滋賀県	名古屋第一赤十字病院	1
愛知県	静岡赤十字病院	3
静岡県	武蔵野赤十字病院	5
東京都	さいたま赤十字病院	3
埼玉県	計	62

施設名		人数
福岡県	福岡市立病院機構福岡市立こども病院	4
	国立病院機構九州医療センター	1
	国立病院機構九州がんセンター	1
	国家公務員共済組合連合会浜の町病院	2
	JCHO九州病院	4
	飯塚病院	2
	久留米大学病院	2
	小倉記念病院	2
	福岡県済生会福岡総合病院	1
	新水巻病院	1
	福岡県立精神医療センター太宰府病院	1
	福岡市医師会成人病センター	1
	計	35
長崎県	国立病院機構長崎医療センター	1
沖縄県	中部徳洲会病院	1
鳥取県	国立病院機構鳥取医療センター	1
兵庫県	神戸市立医療センター中央市民病院	1
愛知県	あいち小児保健医療総合センター	1
神奈川県	神奈川県立こども医療センター	1
	済生会横浜市東部病院	1
東京都	国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院	1
	日本医科大学付属病院	2
	国立国際医療研究センター病院	1
	日本大学医学部附属板橋病院	1
千葉県	国立がん研究センター東病院	1
	計	35

進学

施設名		人数
福岡県	日本赤十字九州国際看護大学大学院	3
鹿児島県	鹿児島大学大学院保健学研究科	1
沖縄県	沖縄県立看護大学別科助産専攻	1
	計	5

研究室訪問

私の専門は在宅看護ですが、学部では保健師教育課程、公衆衛生看護学関連科目、家族看護を、大学院ではヘルスプロモーションおよび在宅看護CNSコースを担当しています。CNSとはCertified Nurse Specialistの略で、専門看護師といえます。本学では今年度より在宅看護CNSコースをクリティカル看護とともに創設しました。専門看護師とは、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを提供できる、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた看護師です。現在13専門看護分野があり、大学などの教育機関がその養成を担っております。しかし、専門看護師の資格は簡単に取得できるものではなく、看護師として5年以上の実験経験を持ち、看護系の大学院で修士課程を修了して38単位を取得した後に、専門看護師認定審査に合格することが必要になります。今回、小林裕美教授とともに在宅看護CNSを立ち上げ、コース運営をしています。医療技術は高度化し、社会的ニーズは多様化している中、持続可能な社会保障制度を模索している日本社会では、在宅医療・看護の発展は不可欠であると日々痛感しています。学部の保健師教育課程では、宗像市の地域住民の皆様と連携・協働して自分の頭で考えクリエティブな看護ができる看護職の輩出を目指し教育を行っています。看護活動を国内外問わず地域を基盤にすることで、看護の対象者を自立した生活者にとらえて共に歩む看護を創造することが可能になると考えています。もっと看護能力を向上させたい学生さんは保健師課程の履修を検討してくださいね。



ヘルスプロモーション・在宅看護 教授
乗越 千枝 先生



大学を囲む、宗像の海・山・空をイメージし、水と空がー続きになっ
て一様に青々としていることを表す四字熟語「水天一碧」から名
付けられました。

「碧」は、同窓会「遥碧会」の字のひとつでもあり、本紙を通じて、
学生・保護者・OG・OBの皆様と大学とがー続きにつながって欲
しいとの願いが込められています。

題字：吉田 歩さん（平成26年度 学部卒業生）／福岡県・柏陵高校出身



日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

発行：日本赤十字九州国際看護大学 企画情報室

〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1丁目1番地

Tel.0940-35-7001 Fax.0940-35-7021

<https://www.jrckicn.ac.jp/>

寄付のお願い

本学では、個人・法人の方からのご寄付を募集して
います。寄付金には、一定の税制上の優遇措置が受
けられます。詳しくは、本学ホームページでご確認を
お願いいたします。